

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和6年 3月 19日

事業所名 キッズスタジオ オリーブの木ST.2

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7		学習に集中できるよう机の位置やパーティションを置いて鑑賞を整えています	事業所に到着する時間が児童によってバラつきがあります。学習課題が終わり、おやつを食べた後、グループ支援までの時間は外遊びの時間を設けています。課題を終えた児童さんが発散できる場と静かに集中できる学習時間を確保できるように工夫していく。
	2	職員の配置数は適切である	7		基準の職員を配置し、それに加えて外部講師がいます	基準の職員以外に送迎スタッフも増やし、待機スタッフを充実させる。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	7		階段もなく安心安全に過ごせる環境になっています。手すりを必要とする児童は現在いません。	ドアの開け閉めはスタッフが行っています。スタッフミーティング
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	7		ケース会議やミーティングを行い業務改善を行っています。振り返りを行い、改善策を考え実行し検討する場も作っています。	定期的にミーティングを行い、全員参加できるように日程調整を行っていく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7		アンケートに書かれた要望や意向を把握し、反映した活動になるよう計画し実行しています。	保護者に対しての発信をより積極的に増やしていけるように、ホームページ更新のお知らせ、SNSなど活用して発信していく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7		HPと事業所に提示しています。	公開した際には、利用者様に通知します。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	7		アドバイザーの評価結果を業務改善につなげています。	分子栄養学を取り入れた活動を行っています。（クッキング、日々のおやつ等） 専門の医師をお招きし、保護者対象のセミナーを行っています。多くの方に参加頂けるように、発信していきます。
適切な支援の提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7		研修があればスタッフに周知している。研修に参加された際は報告会も行っています。	自立支援協議会のこども部会、定例会に参加し、横とのつながりを意識し、学び得たことを実践できるようにしてきます。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	7		子どものニーズを聞き取り、相談専門員が作成するサービス利用計画書を把握し検討会議を行い本人主体の支援計画書を作成しています。	引き続き、本人主体の個別支援計画、保護者の願いや希望、内容のある個別支援計画を作成していきます。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7		研修で教えてもらったツールを活用している。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	7		職員でミーティングを行い立案している。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7		利用者の成長につながるように段階に応じて活動プログラムを組んでいる。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	7		個人の目標、一日の目標を設定し、積み重ねを大切に支援内容にしている。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	7		子どもの特性を把握し、集団活動に参加が難しい子どもは個別活動で対応し、自信をつけて徐々に集団には入れるように計画を作成している。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7		役割を見える化している。LINEツールを活用している。	ミーティングを月、水、金と行うようにする。（現在は月のみ）
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7		残っているスタッフで振り返り、報告会を行い次に生かせるように改善策を考えている。	議事録を作成し、スタッフで共有していきます。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7		支援記録を確認し合い、検討会議の時に活用して改善につなげている。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	7		更新の一个月前までにはモニタリングを行い本人主体の計画になっているか目標や支援方法を確認して同意をもらっています。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	7			
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7		良く関わりのある支援員、管理者、児発管が出席するようにしています。	積極的に出席していきます。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	7		保護者から学校での様子や行事予定を教えてもらっています。またケース会議で情報共有をしている。 送迎時の対応等はマニュアルを伝え、フローチャートを作成して実行している。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		7	受け入れていない	今後も予定はありません
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	7			
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		7	まだそういった利用者がいないがこれから学年が上がるにつれて支援内容の情報を提供できるように資料作りをしておく。	まだそういった利用者がいないが、これから学年が上がるにつれて支援内容の情報を提供できるように資料作りをしておく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7			
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	7		子ども食堂に参加、障害のない子供とレガーレミュージックフェスティバルに出演等活動する機会を作り、交流することができている。	地域交流の活動を可能な限り継続して行っています。
	27	自立支援協議会等へ積極的に参加している	7		業務が忙しく参加できていない。	日程調整し協議会に参加していく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7		LINEを活用し活動報告と写真、動画を送っている。保護者が来所された時や送迎時に活動内容を伝達し、状況や課題について共通理解を持つように努めている。	引き続き、連携を図っていく。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	7		個別相談を受け付けており、希望がある時に行っている。	
保 護 者 へ の 説 明 責 任 等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7		入所する際、契約時に必ず説明している	継続。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7		関わりの深い職員が対応 相談員の助言を基に支援を行っている。 LINEを使ってやりとりしている。	継続。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	7		コンサートやワンデーダイニング等のイベントに招待し、保護者間の連携を支援している。保護者向けの食育セミナーを開催し、交流の場と困り感を解消するきっかけ作りができた。	継続。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	7		電話で対応している。 訪問して対応することもあります。	継続。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7			引き続き、LINEで発信していきます。
	35	個人情報に十分注意している	7		活動報告として写真を送る際、許可なくSNSなどに載せないように伝えている。	ホームページ、SNSに活動を紹介しています。写真を使う時は、モザイク加工したものを使用しています。
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7			
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	7		定期的に発表会を開催し、地域の方々も招待し交流を深めている。	ワンデーダイニング、音楽発表会は継続的に行います。新たに子どもの作品の展覧会なども予定しています。
非 常 時 等 の 対 応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	7		資料を配布している。 状況に応じてLINEで伝達することもある。 ミーティングでも周知する。	取り組んだことをより分かりやすく伝わるように、見える化していく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7		事前に避難訓練（方法）を子どもに伝える。行った内容を保護者に伝えている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7		ワークシートを作成し、グループワークを行い適切な対応へ繋げている。研修にも参加している。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	7		利用児童さんが事業所から脱走することがあった。また、帰りの送迎する前に痙攣を起し、事業所にあった物を周囲に投げて暴れることもありました。以下の事例を今後どうするのかスタッフ間で話し合い、そういった時は児童を職員が取り押さえる、クールダウンできるように療養スペースに誘導し、扉の鍵は施錠することに決めました。決まったことを保護者、新規契約者に伝えています。	再度、保護者へ通知するようにしていく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7		保護者としてしっかり確認をしたうえで、クッキング活動を行っています。またおやつも気を付けて提供しています。	引き続き、気を付けて提供していきます。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5	2	アドバイザーから指示をもらいながら作成していく。	